

ロサンゼルス郡 地域保健公平性改善計画

2024年～2029年



最終改訂：2026年7月



2026年7月の改訂

本資料は2024年～2029年CHEIPの中間改訂版です。実施3年目に入るにあたり、公衆衛生局とパートナーは計画を見直し、現在の取り組みにより適合するように、明確性を高め、スケジュールを調整する機会を特定しました。

また、今回の改訂では、公衆衛生局とパートナーが継続的な優先事項として取り組んでいる、薬物過剰摂取防止を5つ目の重点分野として追加しています。

完全版文書と原版はこちらで確認できます：

<http://publichealth.lacounty.gov/pie/planning/chip.htm>



主な改訂内容：

- CHEIPの第5の重点分野として薬物過剰摂取防止を追加
- 先天梅毒に関する測定可能な目標を追加（重点分野2を参照）
- 目標時期および活動の改訂を含め、目標と、戦略、および活動を改善
- 成果指標を改善
- パートナー情報を更新

***青字部分で改訂を確認してください**

地域保健公平性改善計画 / Community Health Equity Improvement Plan (CHEIP) とは？

これは、健康の公平性を推進し、健康で活力ある地域社会を育むために、ロサンゼルス郡公衆衛生局（公衆衛生局）と、パートナー、および利害関係者が共有する計画です。

策定にあたり、公衆衛生局は地域のパートナーおよび利害関係者と緊密に連携し、入手可能な最新のデータを確認し、ロサンゼルス郡で最も差し迫った公衆衛生上の課題の一部に対して、協働で影響を与える戦略を特定しました。

本CHEIPは、引き続き優先度の高い公衆衛生上の課題を反映し、公平性の達成と健康の増進に向けて連携して取り組みを調整することの重要性を強調しています。

重点分野



1：黒人/アフリカ系アメリカ人の
乳児・妊産婦の死亡



2：性感染症と先天梅毒



3：環境正義



4：暴力の防止



5：薬物過剰摂取の防止

基盤としての公平性



健康の公平性は、すべての人が最適な健康とウェルビーイングを達成するための公正で公平な機会を得られるときに実現します。

CHEIPは、プログラムやプロセスの設計または強化を導くために策定された公平性フレームワークに基づいています。戦略は以下の公平性に関する優先事項に沿って整理されています：

有用で包摂的な健康公平性データへのアクセスを提供する。

機会と資源の公平な分配に向けて政策と制度の変革を支援する。

真に権限を共有し、地域の自律性を尊重するパートナーシップを築く。

公正な文化を取り入れ、健康の公平性を推進するために組織の準備態勢と能力を強化する。

参加するには

CHEIPは、選定された重点分野に対する協働の出発点を示すと共に、他の組織と、機関、利害関係者、および地域住民の取り組みも公平性の推進と健康転帰の改善に貢献することを認識しています。

CHEIPの各セクションには、CHEIPで特定された取り組みを支援または補完するために実施できる追加の「協働アクション」が示されています。

公衆衛生局とパートナーがCHEIPを実施していく過程で、対象とする健康上の優先課題に対する協働的な影響を更に高められる機会を追加し、計画を拡充・更新していく予定です。

最新情報はここから：

<http://publichealth.lacounty.gov/pie/planning/chip.htm>

目指す成果：

ロサンゼルス郡のすべての黒人/アフリカ系アメリカ人の子供と、母親、および出産する人々が健康で喜びに満ちた出産を経験し、子供が1歳の誕生日を大きく超えて健やかに成長すること。

測定可能な目標：

5年以内に、黒人/アフリカ系アメリカ人の乳児死亡率（IMR）を低下させることによって、白人と黒人/アフリカ系アメリカ人の乳児死亡率の差を50%縮小すること。

重点分野1： 黒人/アフリカ系アメリカ人の乳児・妊産婦の死亡



有用で包括的なデータ

戦略1：2027年8月までに、妊産婦・乳児の死亡と関連データを人種/民族別に細分化した、一般にアクセス可能なデータダッシュボードを開設し、維持します。



戦略

政策および制度の変革

戦略2：2027年1月までに、周産期の健康格差の影響を受ける妊娠中の人を少なくとも400人支援する保証所得プログラムなどの経済安定化イニシアチブの実施状況を評価します。

戦略3：2027年6月までに、アフリカ系アメリカ人乳児・妊産婦死亡（AAIMM）ドゥーラプログラムを少なくとも3つの保健関連システムへ拡大し、文化的に肯定的で支援的な妊産婦ケアへのアクセスを改善します。



パートナーシップの構築

戦略4：2027年6月までに、AAIMM Village Fundを通じて、黒人の妊娠中・子育て中の家族にストレス軽減サービスと支援を提供する地域団体を少なくとも10団体支援します。

組織の準備態勢と能力

戦略5：2027年6月まで、および以後継続的に、黒人/アフリカ系アメリカ人の乳児・妊産婦死亡における不均衡に対応するための地域ニーズ評価に基づいて地域のニーズを特定し、少なくとも1つの新たな戦略を策定・実施する地域活動チームの能力を強化します。

戦略6：2027年12月までに、AAIMM運営委員会における共同意思決定を通じて、3年間～5年間の戦略計画を確定します。

協働アクション

1. 政策および制度の変革を提唱する

妊産婦・乳児の健康公平性を優先し、構造的な人種差別と不公平に対処し、黒人/アフリカ系アメリカ人の個人と家族が医療や、安定した住まい、その他の支援へアクセスして利用できるように改善する政策と実践を支援します。

2. 包摂的な研究とデータに貢献する

妊産婦・乳児の死亡および関連データを人種・民族別に細分化したデータを蓄積し、妊産婦・乳児の健康転帰における人種格差の根本原因をよりよく理解し、各自の組織内外で有効な介入策をよりの確に特定できるようにします。

3. 地域主導の優先事項に関与する

黒人/アフリカ系アメリカ人の妊娠中・子育て中の家族を支援し、称えるための戦略やイニシアチブの策定と実施に、地域社会や地域住民と共に参加します。

4. 地域密着型プログラムと社会的支援サービスを推進する

黒人/アフリカ系アメリカ人の妊娠中の女性および子育て中の家族を対象に、教育（集団出生前クラスや、経済的ウェルビーイング、ストレス管理テクニック、母乳育児支援など）や、カウンセリング（メンタルヘルスや栄養など）、またはリソース・医療アクセス支援・その他の社会的支援サービス（父親の関与など）を提供するプログラムを推進、資金提供、および/または支援します。

5. 組織変革を進める

黒人/アフリカ系アメリカ人の乳児・妊産婦の死亡が公衆衛生上の問題であることについて、教育と、認識、および可視性を高めます。黒人/アフリカ系アメリカ人女性個人に責任を帰するような言説を考え方をなくし、その代わり人種差別を問題として明確に示し、制度の変革に取り組みます。サービス提供を行う組織や機関が、黒人/アフリカ系アメリカ人住民固有のニーズや経験をよりよく理解して対応できるように、組織の準備態勢と能力の改善を支援します。

重点分野2： 性感染症と先天梅毒

目指す成果：

ロサンゼルス郡のすべての人々と将来世代が性感染症と先天梅毒に感染するのを防止すること。

測定可能な目標：

1. アフリカ系アメリカ人およびラテン系の男性と性行為をする男性（MSM）における第1期・第2期梅毒の発生率を5年以内に20%低下させること。
2. 先天梅毒の発生率を5年間で15%低下させること。



有用で包括的なデータ

戦略1：2024年12月まで、および以後継続的に、最新で使いやすいHIVおよびSTIのデータを定期的に発信し、地域社会に力を与える情報提供をできるように、アクセスしやすさと双方向性を確保します。



戦略

政策および制度の変革

戦略2：2027年12月までに、すべての妊娠中の人に初回出生前診療時の梅毒スクリーニングを義務付け、妊娠第3期（28週～32週）および分娩時の追加スクリーニングを推奨するカリフォルニア州法とLA郡ガイドラインに対する遵守状況を改善します。

戦略3：2025年12月までに、STIに対する地域の認識と理解を強化することによって、STIリスクが高い集団におけるスクリーニング率および検査率を高めます。

パートナーシップの構築

戦略4：2027年6月までに、STIの予防と管理の取り組みに情報を反映させるために、定期的な関与と協働計画を通じて、地域の利害関係者とのパートナーシップを強化します。

組織の準備態勢と能力

戦略5：2028年6月までに、公衆衛生調査官（PHI）と、地域に根ざした疾病介入専門員（CEDIS）、および最前線の診療所スタッフに対して、対象を絞った研修を定期的に提供する包括的なプログラムを確立します。



協働アクション

1. 梅毒スクリーニングを増やす

生殖年齢の女性や妊娠中の女性を含むリスクの高い集団に対して、梅毒の堅実なスクリーニングと治療を実施します。

2. STIへの認識を高める

梅毒を含むSTIについて、最もリスクの高い人々への教育と認識を高めます。検査や、治療、開示の障壁となり得るSTIに関連するスティグマに対処するために、スティグマ低減キャンペーンを含めます。メッセージには、検査を通常の医療の一部として取り入れる重要性を盛り込みます。

3. 脆弱性が高まっている女性に強化型ケアモデルを活用する

物質使用障害やホームレス状態など、複数の併存課題を抱える女性のニーズに対応するために、梅毒対策の重要な介入として強化型モデルを活用します。

4. 文化的に適切なケアを提供するための組織の準備態勢を強化する

文化的に適切で言語面にも配慮したSTI予防を提供できるように、従事者の能力を高めます。ケアへのアクセスや健康転帰に影響し得る言語的障壁や、文化的規範、および社会経済的要因に対処します。

5. HIVおよびSTIの感染拡大と闘う

性的健康教育セッションやキャンペーンを実施し、コンドーム配布拠点となり、信仰に基づく組織や、市、地域団体、および企業においてHIVやSTIのリスクが高い個人・地域社会が直面するスティグマと差別の撲滅に積極的に取り組みます。地域の機関や提供者は、HIVやSTIのリスクが高い集団に対して、予防プログラムや、検査、および治療サービスへのアクセスを提供・促進し、パートナーサービス（性的パートナーへの聞き取りと通知など）を支援できます。

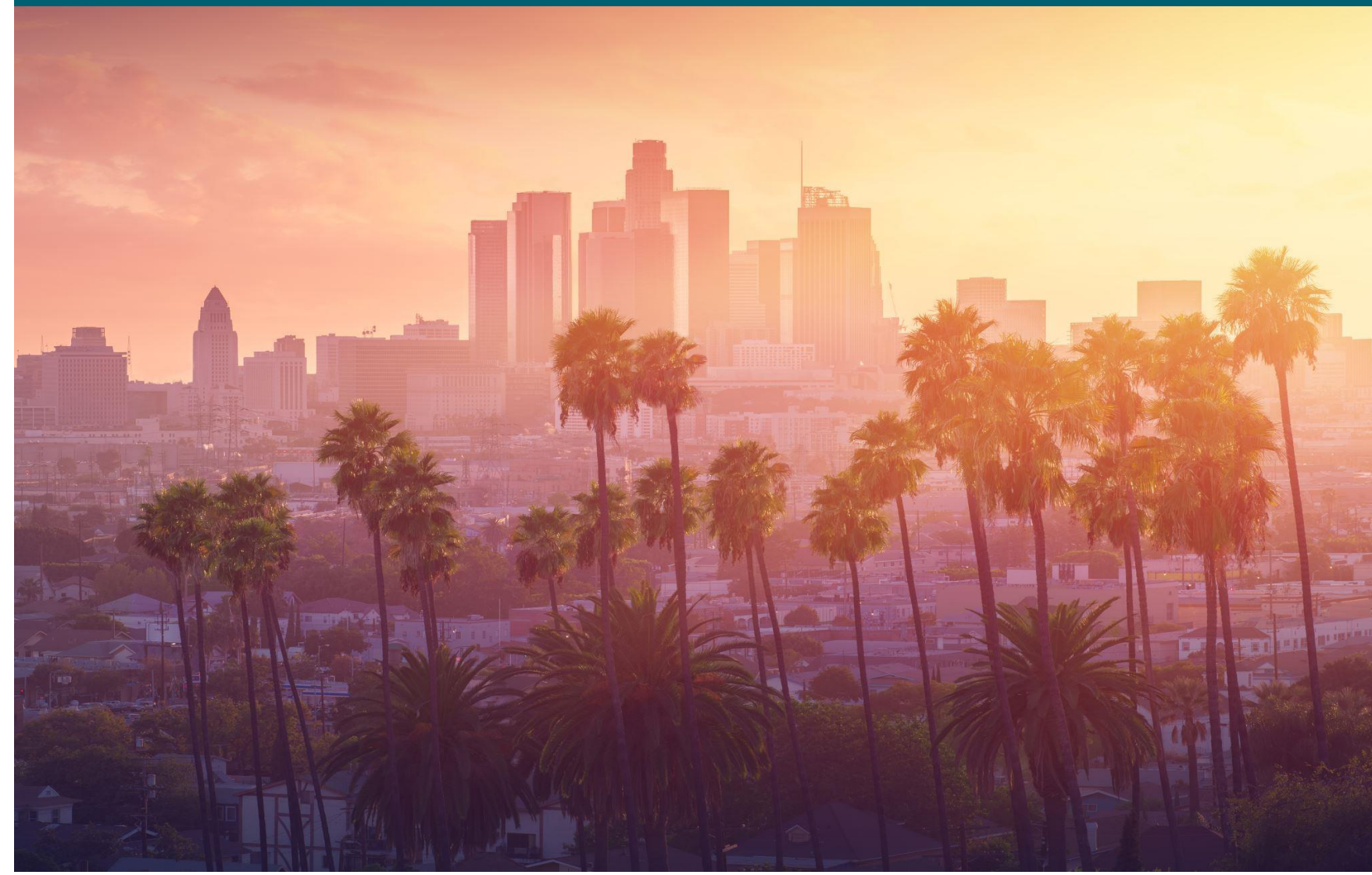
目指す成果：

ロサンゼルス郡で汚染負荷が最も高い地域に暮らす人々が、有害物質への曝露や気候変動の悪影響から守られ、健康な生活をおくること。

測定可能な目標：

5年以内に、ロサンゼルス郡で最も汚染された地域に住み、血中鉛濃度が $3.5\mu\text{g}/\text{dL}$ 以上の子供の少なくとも25%について、鉛曝露の原因を特定して是正すること。

重点分野3： 環境正義



戦略

有用で包括的なデータ

戦略1：2026年12月までに、戦略的計画策定に関する利害関係者からの意見を踏まえ、環境と、気候、関連する健康状態に関するデータを共有する一般にアクセス可能なプラットフォームにデータを掲載します。

戦略2：2026年6月まで、およびその後毎年、戦略的な計画策定に関する利害関係者の参加から得た意見に基づき、環境正義・気候保健局（OEJCH）のプログラムのウェブページが、一般向けに最新で関連性の高い情報を提供するようにします。

政策および制度の変革

戦略3：2028年6月までに、少なくとも3つの優先政策課題（石油/ガスや暑熱など）について活動/取り組みを実施します。



パートナーシップの構築

戦略4：2028年12月までに、鉛塗料の危険を是正することを通じて、LA郡全域の2,000戸の住宅で鉛塗料による鉛中毒リスクを低減します。

戦略5：2025年12月まで、およびその後毎年、初期パイロット地域における地域の環境正義的・気候正義的な課題に関する知識と認識を高めるために、小地域単位の保健チームである地域保健チーム（CPHTs）ごとに研修を提供し、地図を作成します。

戦略6：2026年6月までに、LA郡内の環境正義・気候保健組織と連携し、環境正義および気候保健をテーマにしたシンポジウムのための場を支援・開催します。



組織の準備態勢と能力

戦略7：2027年1月までに、汚染への曝露と気候からの影響による負担が大きい地域における環境曝露に起因する健康格差を低減するために、協働で策定したOEJCHの戦略的計画を実施します。

協働アクション

1. データとモニタリングに貢献する

LA郡の地域社会の健康に悪影響を及ぼす環境条件と健康改善のための介入策の有効性を理解するためにデータを共有します。

2. 政策の策定と、実施、および執行に積極的に関与する

政策立案者や、規制機関、非営利団体、および住民といった幅広い利害関係者と連携し、環境正義と気候保健に関する研究を有意義な政策変革につなげます。政策業務のすべての段階で環境正義の対象となる地域社会を特定し、中心に据えます。累積的な環境汚染への曝露を含め、環境被害を最も直接的に受けている地域社会の状況に対処する政策を提唱します。脆弱な集団を汚染物質への曝露から守ること、および/または健康格差を生む汚染物質への曝露を減らすことによって、健康を増進する政策を提唱します。

3. 地域主導の優先事項とプログラムに関与する

環境正義と気候保健に関する計画立案と、優先順位付け、戦略の実施、および意思決定プロセスに地域社会と住民を積極的に関与させることによって地域社会と住民の力を高めます。

4. 地域の環境条件に現地で対処する地域の能力を構築する

不釣り合いに大きな影響を受けている地域社会に対して、環境正義の対象となる地域社会における複数の汚染源への曝露を永続させる累積的影響と、土地利用、その他の意思決定プロセスについて教育します。

重点分野4： 暴力の防止

目指す成果：

ロサンゼルス郡のすべての家族と地域社会が暴力のない環境で暮らし、平和な文化の中で健やかに発展すること。

測定可能な目標：

1. 殺人率におけるアフリカ系アメリカ人とロサンゼルス郡平均との差を5年以内に20%縮小すること。
2. 親密なパートナーから身体的暴力を受けたことがあると報告する成人女性およびジェンダー多様性・拡張性を持つ人々の数を5年以内に10%減少させること。



戦略

有用で包括的なデータ

戦略1：2025年6月までに、OVP戦略計画の目標および目的に対する進捗を評価する指標を備えた集中型のオープンデータポータルを作成します。

政策および制度の変革

戦略2：**2027年6月**までに、郡の制度とサービス提供者間の調整を改善し、性的暴行を受けた人々へのサービスを向上させ、予防プログラムへの**投資に情報を提供**するために、**ロサンゼルス郡**性的暴行協議会を設立します



パートナーシップの構築

戦略3：2027年7月までに、機関間の調整と連携を強化すること、研修と技術支援を提供すること、そして地域団体（CB0）がGBV予防モデルとプログラムを実施できるように資金提供することによって、生涯を通じたジェンダーに基づく暴力に対応するイニシアチブとサービスを拡大します。

戦略4：2027年6月までに、トラウマ防止イニシアチブ（TPI）を通じて、地域に根ざした地域主導の公共安全の取り組みを拡大します。これには、ストリートアウトリーチや、地域暴力介入（CVI）、病院暴力介入（HVIP）、Community Action for Peaceのネットワークが含まれ、1) **暴力から不釣り合いに大きな影響を受けている** 9地域への投資を増やすことと、2) ピアによる暴力への介入研修と郡サービス調整のための基盤を構築することによって行われます。

戦略5：2025年6月まで、**および以後継続的に**、地域における教育・認識向上と、政策変革、およびピアアプローチを通じて**銃**の安全を促進する包括的計画を実施します。

組織の準備態勢と能力

戦略6：2026年6月までに、癒やしとウェルビーイングを促進し、地域の固有のニーズを支援するために、郡の各部門と地域のパートナーとの間で、トラウマインフォームドな制度と実践の変革を実施します。

戦略7：2028年6月までに、暴力と、暴力を公衆衛生上の問題として理解する共通認識を促進するために、調整されたコミュニケーション戦略を策定します。

戦略8：2026年6月まで、**および以後継続的に**、若者や、有色人種コミュニティ、退役軍人、および銃器所有者を含む、リスクが高いことが示されている集団における自殺および自殺関連行動を防止するための地域の取り組みを実施します。

協働アクション

1. 包摂的な研究とデータに貢献する

- 銃暴力や、自殺、憎悪暴力、家庭内暴力、性的暴力、および人身売買を含む、複数の形態の暴力に関するデータの不足に対処し、理解を深めるために、データを特定し共有します。
- 暴力の状況だけでなく、ピアアプローチやストーリーテリングといったヒーリングインフォームドで地域を中心に据えた実践の影響力についても、より深く理解するための定性的データ収集を支援し、暴力の影響を受けた人々の声を拡大し、地域参加型研究を支援します。

2. 政策および制度の変革を提唱する

- トラウマインフォームドなアプローチや、癒やしの実践、および人種差別・偏見の要素の低減を推進する政策と実践を支援・実施します。加えて、暴力を受けた人や若者を含む地域住民が、そういった政策と実践の策定に情報提供と参加ができるプロセスを支援します。
- 草の根的な地域団体が公平性を推進できるように、資金へのアクセスを高める政策と実践を支援・実施します。これには、財政代理機関との連携や、契約要件の合理化・簡素化、および郡の保険要件の検討に加え、草の根的組織の能力を高める技術支援イニシアチブへの資金提供が含まれます。

協働アクション

3. 地域主導のプログラムと優先事項に関与し支援する

- リソースとサービスを提供し、若者のリーダーシップを育て、芸術・癒やし・修復的司法を推進する包括的で文化的に関連性のあるユースセンターなどのプログラムの開発を支援し、既存の地域密着型でトラウマインフォームドなイニシアチブを支援します。
- 地域の暴力予防連合や平和のための地域行動ネットワークにおいて、地域の団体やパートナーと積極的に関与し、地域のリーダーシップと連携を支援し、地域の予防計画の一部として、暴力の根本原因と、公衆衛生アプローチ、トラウマと癒やし、人種差別、および歴史的抑圧に関する共通理解を生み出します。
- トラウマ予防イニシアチブの対象地域など、暴力の影響を受けた地域社会において、健康や、癒やし、ウェルビーイングを支援するイニシアチブと協調し、各地域のニーズと資産に合わせた包括的で場所に根ざしたアプローチを構築します。郡全域で無料の銃安全ロックを配布するための追加リソースとパートナーシップを特定します。

4. 組織変革イニシアチブに投資する

- あらゆるレベルの従事者向け研修や、若者や若者と関わる組織向け研修、スタッフ支援・リソース提供・二次的トラウマや共感疲労への対処を行う組織的な実践とポリシーの調整を含め、トラウマインフォームドな制度変革に投資します。
- 最新の社会状況と政治的・物理的な環境に適応するための迅速な対応や、新しく創造的な戦略、および能力を可能にする柔軟な資金提供とリソース提供によって、プログラムとイニシアチブに投資します。
- 暴力の多い地域のトラウマセンターにおいて、パーク・アフター・ダークや、サマー・ナイト・ライツ、危機対応、ストリートアウトリーチ、病院暴力介入（HVIP）などのプログラムを維持・拡大するために、専用かつ継続的な資金とリソースを提供します。
- 暴力は予防可能な公衆衛生上の問題であるという認識を支援する調整されたコミュニケーションキャンペーンに投資し、暴力の影響を受ける多様な利害関係者を積極的に関与させる共通のメッセージと革新的な方法を開発します。

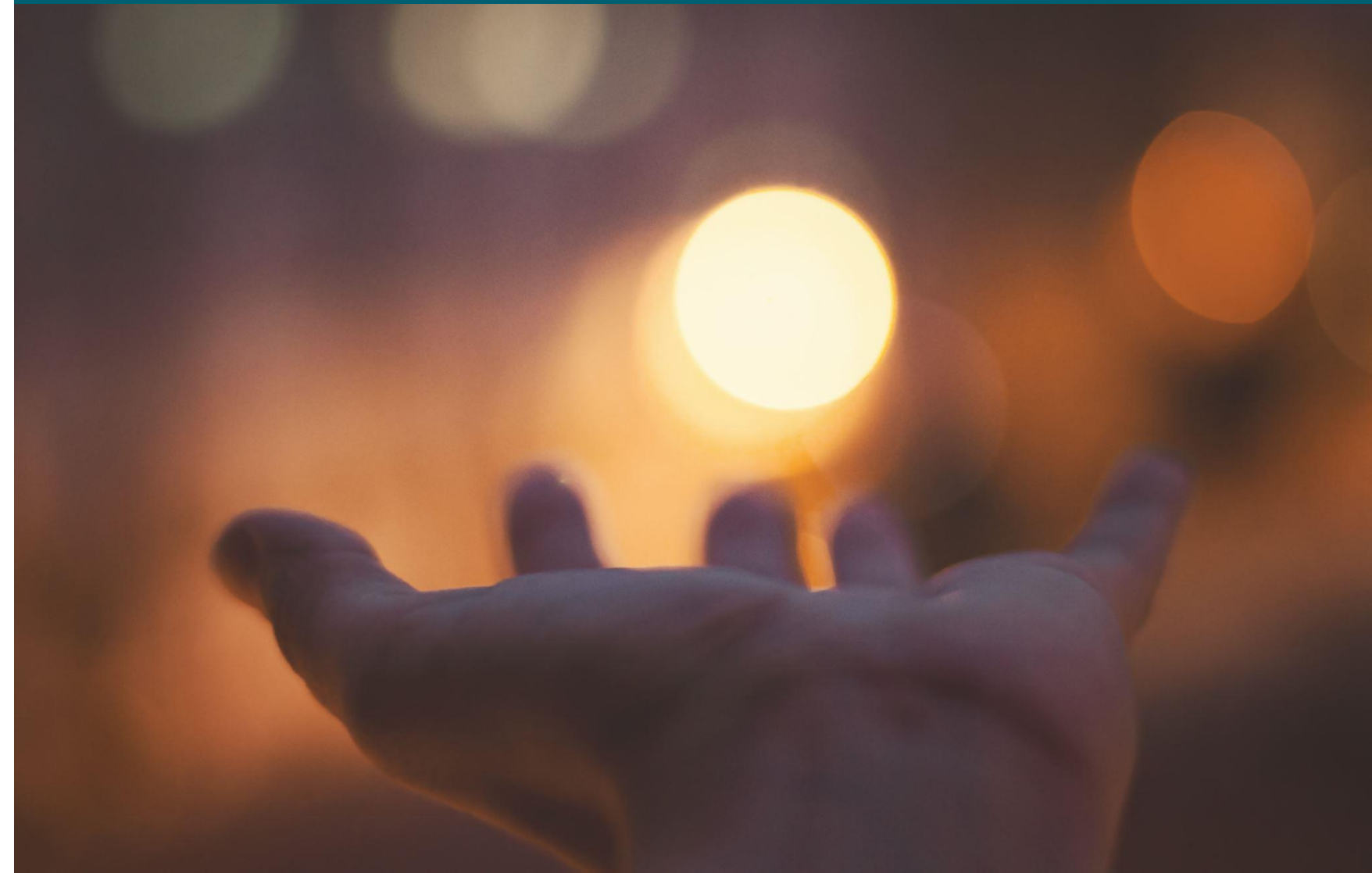
目指す成果：

ロサンゼルス郡のすべての人々と地域社会が、薬物過剰摂取で命を落とすことなく、夢を追い、自らの可能性を実現する機会を持てるようにすること。

測定可能な目標：

1. 薬物過剰摂取率におけるアフリカ系アメリカ人とロサンゼルス郡平均との差を3年以内に20%縮小すること。
2. 薬物過剰摂取率における貧困率の高い地域とロサンゼルス郡平均との差を3年以内に10%縮小すること。

重点分野5： 薬物過剰摂取の防止



有用で包括的なデータ

戦略1：2026年12月まで、およびその後毎年、SAPCのアルコール・薬物調査ダッシュボードを更新し、更新版データレポートを公開します。

政策および制度の変革

戦略2：2028年6月までに、優先対象地域にサービスを提供する物質使用治療プログラムを運営し、1名以上の免許を有する臨床専門職を配置し、請求データによりクライアントへ直接サービスを提供していることが確認できる機関の数を20機関以上に増やします。

パートナーシップの構築

戦略3：2026年7月から継続的に、DPHとの契約を通じて運営されるハームリダクション型注射器サービスプログラムの数を拡大し、拡大に向けて契約を見直します。

戦略

組織の準備態勢と能力

戦略4：2026年7月から2029年6月の間に、SAPCが契約する予防と、ハームリダクション、治療、および回復支援サービス機関のネットワーク全体で、ハームリダクションと、ナロキソン、および依存症医療に関する更新された研修を実施します。



協働アクション

1. 地域主導のナロキソンへのアクセスと、地域密着型薬物チェック、および過剰摂取防止・対応教育を拡大する

最もニーズの高い地域に焦点を当てた地域団体や、信仰に基づく機関、アウトリーチプログラム、および住宅プログラムと連携し、ナロキソン配布と過剰摂取防止プログラムを実施します。地域団体は、配布用ナロキソンを入手するためにカリフォルニア州のナロキソン配布プログラムを活用すべきです。また、試験紙も利用可能で、地域住民はUCLAの薬物チェックプログラム

(<http://www.drugcheckingla.com>) に参加し、追加の定量的薬物チェックを支援できます。

2. 文化的背景に応じた予防・反スティグマキャンペーンを共同設計する

サービス計画エリアに基づいた予防ネットワークに参加し、物質使用予防プログラムを実践に移します。物質使用の影響を受けている人々にとって障壁となるスティグマを助長する用語について文献を確認します。Rewriting LA County's Storyキャンペーンのウェブサイト (<http://bylaforla.org>) に掲載されたツールキットを用いて、物質使用に対する反スティグマの対応を活用・促進します。

3. 地域環境における物質使用の普遍的スクリーニング

依存症支援を必要とする地域住民を特定するために、文化的背景に応じたスクリーニングツールを活用します。公衆衛生局の物質使用サービスについては、www.RecoverLA.org（モバイル端末向けに最適化）で詳しく確認できます。物質乱用サービスヘルプライン（SASH）または利用可能なサービス・空きベッド検索ツール

(<http://sudhelpla.org>) を利用して、物質使用および回復支援サービスに人々がつながれるように支援します。物質使用サービスには、外来治療と、集中的外来治療、居住型治療、離脱管理、およびオピオイド治療プログラムが含まれます。

協働アクション

3. 治療ナビゲーションと再関与サービスを拡大する

地域医療の中核要素として物質使用サービスのナビゲーションを開発します。これには、現場にいる従事者が対応できる範囲内で、現場でのカウンセリングや、薬物療法、および支援を提供することが含まれます。物質使用サービスのベストプラクティスに関する公衆衛生局の研修に参加し、地域のニーズに合わせた実施計画を策定します。ロサンゼルス郡で利用可能な物質使用サービスアクセスツールを通じて、物質使用治療サービスへの遠隔医療アクセスを活用します。

4. 協働アクションのための地域主導の過剰摂取データ共有に参加する

公衆衛生局の[データレポートおよび概要](#)ページに掲載されているデータレポートを確認し、報告用の過剰摂取救命データの収集を支援する地域の過剰摂取防止連合に参加します。過剰摂取防止と対応の策定に役立つ貴重な情報を提供する地域ニーズ評価調査やその他の時点調査評価に参加します。

変化には、公衆衛生局とパートナーの集団的な意思とコミットメントが必要です。

本計画の成果は、縦割りで取り組んでいては達成できません。

本計画が、健康転帰の不均衡の根本原因に対処することによって、健康格差を縮小するために共同で活用できるロードマップとなることを願っています。

パートナーになる方法についてはこちらをご覧ください：

<http://publichealth.lacounty.gov/pie/planning/chip.htm>

